

# 令和5年度ノースアジア大学データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

## I. 学内からの視点

### 1. プログラムの履修・修得状況

学生のデータサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、データサイエンス・AIを適切に理解し、それらを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、「データサイエンス・AI教育プログラム」を令和5年度後期より開設した。

データサイエンス・AI教育プログラムでは、「コンピュータ利用技術Ⅰ」（2単位）を必修とし、「統計学」（2単位）または、「社会調査の仕方」（2単位）のいずれかの単位の修得（合計4単位）した学生に、「修了証」を発行することとしている。

後期ガイダンスにて全学生にチラシを配布し、説明会を実施した他、本学ポータルサイトを通じて全学的な周知を図った。令和5年度の実績については、履修者数については、経済学部19名、法学部12名の計31名であった。そのうち、経済学部15名、法学部10名の計25名がデータサイエンス・AI教育プログラムを修了した。結果として、全学部・全学科の学生が履修し、修得率も8割であった。

### 2. 学修成果

データサイエンス・AI教育プログラムを修了した学生に、学修成果の一つとして、「修了証」を発行する予定である。学生の今後の科目履修や就職活動等に活用してもらうことを見込んでいる。

また、本学ではルーブリックによる学修成果の評価を全学的に導入している。学修成果評価項目を記した確認シートを用いてゼミナール等の担当教員が評価し、その結果を個々の学生にフィードバックすることにより、教育内容や教育方法の改善、学生のこれからの伸びを期待した改善方策等に生かすこととしている。

### 3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

令和5年度の授業評価アンケートでは、「この授業のレベル（難易度）は適切か」という設問に対して、次のような結果となった。

・「コンピュータ利用技術Ⅰ」

そう思う（46%）、ややそう思う（19%）、どちらでもない（27%）

あまりそう思わない（8%）

・「統計学」

そう思う（29%）、ややそう思う（43%）、どちらでもない（14%）

あまりそう思わない（14%）

・「社会調査の仕方」

そう思う（70%）、ややそう思う（20%）、どちらでもない（10%）

あまりそう思わない（0%）

科目によって理解度のばらつきはあるが、約7割の学生から「そう思う」、または「ややそう思う」との回答を得ており、今後より一層、学生には分かりやすく、かつ、興味・関心の高まる授業として、科目担当者やFD委員会と連携して、授業の評価、改善に向けた取り組みをしていきたい。

#### 4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

現時点では実施していないが、令和5年度に実施した授業評価アンケートの結果では、約6割の学生が、「この授業がこれから役立つか」、「この授業の内容に興味・関心がもてたか」、「新しい知識の習得や関心が深まったか」という設問に対して、「そう思う」との回答だった。

今後、履修モデルやカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等を活用し、推奨度を示していけるよう検討していきたいと考えている。

#### 5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

令和5年度よりデータサイエンス・AI教育プログラムを設置し、ガイダンスやポータルサイトでの全学的な周知により、設置初年度は前述の結果となった。

令和6年度には、新入生に配布している「学生便覧」やホームページへの掲載、令和5年度のデータサイエンス・AI教育プログラム修了者への「修了証」の発行等を行う予定である。今後の実績も踏まえ、データサイエンス・AI教育プログラム推進会議等で検討しながら、履修者数・履修率向上に向け取り組んでいきたい。

## Ⅱ.学外からの視点

### 1. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

データサイエンス・AI教育プログラムを修了した卒業生を現時点で輩出していない。令和6年度以降の卒業予定者より、データサイエンス・AI教育プログラムを修了した学生が該当するため、本学で就職支援等の担当部署となっている「キャリアセンター」と連携し、卒業生や就職先の企業へのアンケート等を通じて、現状把握に努めていくとともに、今後のデー

タサイエンス・AI 教育プログラム改善に向けて検討していきたい。

## 2. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

データサイエンス・AI 教育プログラムを修了した卒業生を現時点で輩出していないため、今後、データサイエンス・AI 教育プログラムを終了した令和6年度以降に、上記と同様、「キャリアセンター」と連携し、就職先の企業へのアンケート等を通じて、情報収集に努めていくとともに、今後のデータサイエンス・AI 教育プログラム改善に向けて検討していきたい。

## **Ⅲ. 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること**

データサイエンス・AI 教育プログラム関係科目を基礎として、さらに発展した「データサイエンス入門」、「データサイエンス基礎」、「データサイエンス応用」、「ビッグデータとAI」等の実践的な科目履修へと繋げるため、履修モデルやカリキュラムツリーを活用し、体系的に示している。

また、本学経済学部には、経済データサイエンスコースを設置している。全学生を対象に定期的にセミナーを開催し、数理・データサイエンス・AI について、実践例を紹介しながら、学ぶ楽しさや意義等について情報発信をしていきたいと考えている。

## **Ⅳ. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること**

授業評価アンケートの結果を参考にしながら、FD 委員会で検証した内容をデータサイエンス・AI 教育プログラム推進会議とで共有していきたい。ICT 機器を活用し、より「分かりやすい」授業とするために改善に向けた方策を検討していきたい。

日々発展し、変化していく生成 AI 技術や社会情勢に対応するため、シラバスやカリキュラムマップにて示している「到達目標」等についても適宜見直しも図りながら、全学的に取り組んでいきたい。